

Journal of Social Policy and Social Work 2015;19:45-57.

Training health professionals engaging in 18-month check-up for early detection and early intervention of Autism Spectrum Disorder

(1歳6か月児健診に従事する専門家を対象にした自閉症スペクトラム早期発見・早期介入に関する研修プログラム)

執筆者

Yuhei Hatakenaka, Shingo Hirano

概要

日本では、1歳6か月児健診が各地方自治体で実施され、自閉症スペクトラム障害（ASD）やその他の神経発達障害を診査する機会となっている。乳幼児健診従事者向けの研修プログラムを開発し、研修の教材はブックレット、DVD、ビデオクリップで、1歳から2歳までの社会的コミュニケーションの定型発達を理解できるように作成されている。アンケートは、研修の事前と事後に行なわれた。全対象者のアンケートによる評価は、事前・事後を比較すると事後が高くなった。地方自治体の保健師は健診の前線を担っているにも関わらず、研修前は社会的コミュニケーションの定型発達を理解しているという自信が低かったのだ。定型発達や ASD の早期徴候を学習する機会があることで、早期発見・早期介入に効果が期待できる。